

# 子宮頸がんワクチンの積極的勧奨が 始まりました

## 子宮頸がんの発生

子宮頸がんの発生にはヒトパピローマウイルス（HPV）と呼ばれるウイルスが関わっています。女性の多くがウイルスに一度は感染すると言われており、日本では年間約1万人が子宮頸がん罹患し、約2900人の方がなくなっています。20代のがん罹患の9%、30代のがん罹患の13%を子宮頸がんが占め、子宮喪失する方もいます。

## ① 今からできること

日本では、小学校6年～高校1年生の女の子を対象にワクチン接種を提供しています。カナダ、イギリス、オーストラリアなどでは女の子の約8割がワクチンを受け、子宮頸がんの発症は激減しています。

## ② 20歳になったらできること

HPVワクチンを受けていても、100%の感染予防はされませんので、子宮頸がん検診を受けることが大切です。

## 宮崎県

宮崎県では市町村と契約した医療機関でワクチン接種を受ける事ができます。

- ・ 現在、2種類のHPVワクチンのいずれかを公費で受けられます。
- ・ 半年から1年の間に3回接種を受けます。16歳未満の方が接種するには保護者の方の同意が必要です。
- ・ 公費の対象年齢外で受けると、ワクチンの接種費用は4-5万円です。
- ・ 接種できる医療機関は、市町村からの案内を御覧いただくか、市町村の予防接種窓口にお問い合わせください。

市町村の  
窓口はこちら



## HPVワクチンのリスク

多くの方に、接種を受けた部分の痛みや腫れ、赤みなどの症状が起こります。インフルエンザの予防接種と比べて痛みが強いと感じる方もいます。ワクチン接種を受けた後に、まれですが、重い症状が起こることがあります。広い範囲の痛み、手足の動かしにくさ、不随意運動などの多様な症状が報告されています。接種後に重篤な症状として報告があったのは1万人あたり6名とされています。ワクチンを3回接種しますが、1回目、2回目に気になる症状が現れたら、以降の接種をやめることができます。

**※接種後に症状があるなど不安のある方は、まずは、接種した医療機関に受診・相談してください。**

HPVワクチンについてもっと詳しく知りたい場合は「HPVワクチンについて知って下さい：詳細版（右QRコード）」やその他のご案内を  
ごらんください↓



厚労省 HPV



宮崎県 HPV

